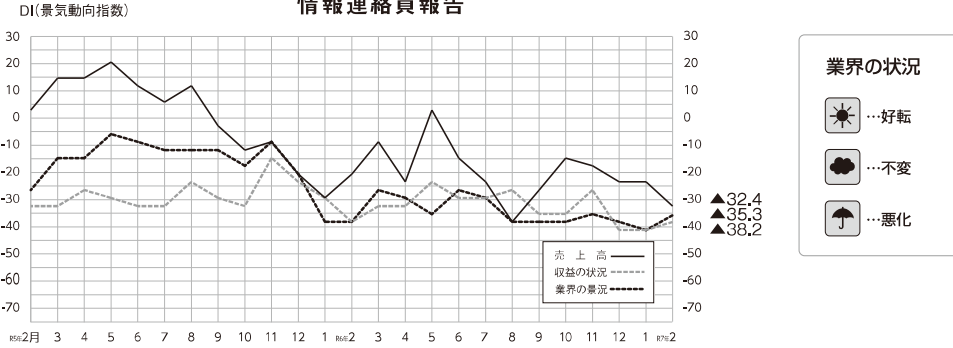


情報連絡員報告



☀️	なし
----	----

☁️	食品団地	2月度動向は昨年並。電気・ガスの値上がりしがじり高傾向。ガソリン類も全国一の高値。収益面では厳しいものがある。先行きに懸念がある。
	テントシート	原材料の高騰について、販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。3月から防災加工製品の値上げがあり、厳しい状況である。
	木製品素材生産	2月期は降雪等により出材量は減少しており、年間の全重量も昨年と比べ1割程度は減少するのではないと思われる。丸太価格については、製材品の動きが依然として鈍い状況である。丸太価格も一部のヒノキについては引き合いもあるものの、価格への反動は小さく全体的には横ばいで推移している状況である。3月となり年度末となるが、大きな変動は見込めない。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体として、販売金額及び生産量が5カ月連続で前年同月比を上回った。また、今月は販売量も前年を上回った。また、衛生用紙のトイレットペーパーは、先月に続き販売量を含めて動きが良い。
	製紙(手すき和紙)	良い時もあれば悪い時もあり、変動状況が続いており予測が難しい。今月は、前年度と同じく横ばいで、まだまだ厳しい状況は変わらない。
	生コンクリート製造	2月度の全組合員の出荷量は、対前年比96.8%で前月より若干増加傾向であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比95.1%で前月と同様の傾向であった。地域的には、東部が増加傾向であるが、中部以西が減少しており、東高西低の状況を呈している。特に幡多地区の減少傾向が顕著である。
	刃物製造	前半は良い数字も出ていたが、後半は出荷も少なく、前年を割ってしまった。受注はそこそこあっても、供給が伴わない状況が続いている。
	機械団地	原材料費や人件費等のコスト高と需要の低迷などが影響し、収益改善が図れない事業所が複数ある。団地内各社の業況は足踏み状態が続いている。
	船舶製造	2月納期の契約がなかったため売上は減少している。仕事量は高操業で推移している。
	珊瑚装飾品製造	2月度の取引額は前年同月比91%となり、5カ月連続で前年を下回る結果となった。
	卸団地	外食業界において物価高の影響が大きく、安価をアピールしていた店などは特に苦しい状況にあるように感じる。また、全体的な価格設定の変更により、全体の消費が鈍くなっていることは間違いない。景気回復は感じられない。仕入商品・ガソリン代・電気代の値上げが続くものの、販売価格に転嫁できにくい。
	青果卸売	入荷状況(前年同月比)について、野菜:数量94%・キロ単価120%、果実:数量81%・キロ単価119%。組合員合計では105%強であるが、各組合員別に前年同期比を見ると、1月度以上に大きな差が生じている。
	各種小売(土佐市)	2月はあまり動きもなく、状況は変わらない。商店街にも人通りが少なく、寂しい状況が続いている。
	電気機械器具小売	2月度は全商品平均で前年比102%、省エネタイプのエコキュートは前年比108%、白物家電は前年比98%、4K8Kテレビは前年比96%であった。

	中古自動車小売	ちばさんセンターにて中古車フェアを開催。前年同月開催と比べ、販売台数、来場者数ともに増加。高年式車の販売が集中している為、販売単価も前年と比べ高い。中古車市場相場も安定化しているものの高年式車両の流通量が少ないので、未だ高値を維持している。
	ガソリンスタンド	2月現在の激減緩和措置の補助額は12.5円/Lと減額となった。原油価格も値下がりしているのが激減緩和措置である補助金の減額により、実質仕切り価格は4連続上昇しているにも関わらず、なぜか全国平均のガソリン販売価格が下落という不思議な現象が続いている。
	商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の98.6%(411台減)、料金収入は前年の98.7%(109千円減)。帯屋町筋商店街の販促として「帯屋町筋商店街第1回一店逸品ガイドブック」チラシを制作し、新聞折込(2/21)を実施した(チラシ内容は48参加店からお勧めする逸品の紹介・駐車場MAP・お買上サービス・イベント等)。大橋通り商店街では2月9日に「大菓子通り」を開催。開始時間の11時から多くの来街者が訪れ商店街全体が非常に賑わった。
	商店街(四万十市)	一條神社と不破の八幡宮で節分の行事があった。東下町商店街の稲荷大祭も無事終了した。22日から春の菜の花まつりが入田ヤナギ林で始まった。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比:37%、全旅クーポン合算後同月対比:74%、令和6年度総売上前年対比:109%。今年度は新規組合員の獲得に繋がらなかったため、新年度は新たな戦略を検討、立案したい。
	IT事業	今月の売上は前年同月比で19.5%減となった。2月は稼働日数が少ないこともあり、例年減少傾向にあるが、直近5カ年で見て最も低調な結果となった。3月の復調に期待したいところである。年度末に向けた需要の動向を注視しつつ、顧客による補助金活用の促進や設備投資の拡大を引き続き支援し、3月の売上回復を目指す。そのためには、青年部を中心とした営業強化の取り組みを継続し、組合の共同受注事業の拡大を早急に軌道に乗せることが必要と考えられる。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比94.7%となった。各地区で増減があったものの全体としては前年同様となった。
	タクシー	突働1日車当りの前年同月比運送収入:107.5%、輸送回数:103.0%、実働率:48.8%。事業譲渡が2社程度あり、車の数はほとんど変わらずである。現在27事業所600台の会員で運営しているが、25年前(平成10年頃)には40数社850台あり、運転者不足もなく何も不自由なかったことが懐かしく思い出される。

	酒類製造	微増というところ。各イベントでは日本酒ファンで盛況である。行業シーズンの期待。輸出はやや持ち直し。
	製材	原材料価格等の上昇により、採算は悪化傾向にある。
	建具	公共工事、個人住宅共に仕事が少ない。昨年の夏頃より仕事量が少ないのが続いている。
	印刷	11月・12月・1月と3カ月連続売上減、操業度低下だったが、当月はなんとか昨年対比を維持した。県内外の需要共に低調な企業と低調な企業の差が顕著に出ている感じだが、3月度は例年需要のピーク時となるので期待を込めたい。
	コンクリート製品	対前年同月比142.7%。今月は出荷量が多かったが、累計では例年より少ない状況である。
	生鮮魚介卸売	2月は今までになく魚の入荷が少なかった。寒波の影響もあるが、いろんな経費が上がり魚価に乗っかっている中で、他の市場に買い負けしている。カツオも例年になく不漁で大変厳しい。
	商店街(安芸市)	2月9日(日)に「きさらぎ市」と「軽トラマルシェ」が同時開催された。「きさらぎ市」については、5年前に地元安芸高校の「総合的な学習の時間」という授業の中で、高校生が商店街の活性化を目的にイベントを企画・実施した。それ以降、コロナの影響もあり継続ができなかったが、今年に入って安芸高校の生徒から「きさらぎ市」の復活をしたいと申し出があり、商店街の協力のもと復活が実現した。また、6回目となる「軽トラマルシェ」と同時開催により、2会場をつなぐスタンプラリーを実施し、両会場でスタンプを集めると「ミツカン彩りゆず」(ミツカンから提供)がプレゼントされ、来場者数の相乗効果が見られた。さらには、両会場を歩き交う人の流れで、商店街に歩行者が増え、更なる賑わいを感じることが出来た。2月12日(水)には、「地域に다가わがまち商店街表彰」の受賞による視察が行われ、中小企業庁をはじめ、県内外から多数の方にご参加頂いた。商店街を巡り、農福連携やこれまでの取り組みなどを紹介、意見交換会では、今回受賞のきっかけとなった『異業種・異世代の交流の場(たまりば)』を高く評価いただいた。
	旅館・ホテル	アタゴコノの需要増が落ち着き、対前年比で減収、減益になる見通し。3月以降の予約が低調かつ関西圏の影響も懸念される。今年は「あんぱん」の追い風がある一方、インフレによる消費者の購買意欲の低下も見られる。経費は軒並み上昇しており、収益性の低下を懸念。
	飲食店	売上高は10カ月連続で前年同月を下回った。当月の下げ幅は大きく前年度比で1割減。コロナ禍以前の売上比較は約8割~9割。集客は少なく県の西部で特に減少している。物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が買束より、前年同月と比べて更に物価は高騰。光熱費・仕入価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	今年に入って需要の減少が続いている。特に点数減少が大きく、消費者の節約志向や寒さの影響、全国一のガソリン高のメンテナンス効果など、現状と今後には危機感を募らせる経営者もいる。一方IT業界は好調が続いている。インバウンドに加え、来月からの「あんぱん」効果にも期待が持てる。石油製品が多い資材価格は春から値上げが続く。
	一般土木建築工事	令和7年2月分の県下生コンクリート総出荷量は、前月比102.6%、前年同月比96.8%、前年同月累計比でも95.1%と依然低調。そのうち共同販売事業に係る出荷量は累計198173.82m ³ で全体の38.13%と低調で危機的レベルにある。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、骨材他あらゆるものが高騰しており、今年2月出荷分より一部値上げ実施となっており、県下全域で4月出荷分より値上げを目指している。高知市の組合再編は、1月16日の発足総会は一息断絶となったが、反対している組合と袂を分かち3月17日に発足総会を開催予定としている模様。今回の組合再編については、そもそもの相互扶助という観点も抜け落ちており、問題があると思えない。
	一般貨物自動車運送	1月同様2月も荷動きは鈍く、燃料価格も政府補助金の先細りの影響もあり、更なる値上げとなって組合員企業の経営を圧迫し続けている。組合事業も前年を若干下回った。